

インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）

フリガナ) ニホンダイガク	フリガナ) ショウガクブ	フリガナ) タカイゼミ
日本大学	商学部	高井ゼミ

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ) チームビー	フリガナ) カメヤ ホナミ	5	無
チーム B	亀屋 歩南		

研究テーマ（発表タイトル）

TSUNAGE 隊 高齢者×学生 ～つながろう交流の輪、つなげよう心の輪～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

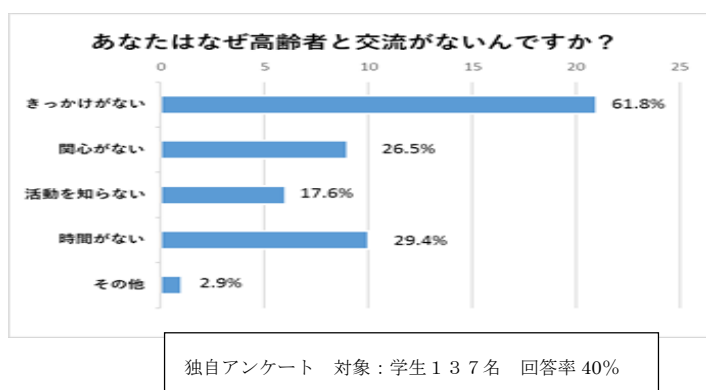
1. 研究概要（目的・狙いなど）

異世代交流を盛んにさせることによって、知識の共有や伝承、余暇の充実、イメージの相違の修正、新たな役割の形成、今後増えると見込まれるシニア世代の活性化を、若者世代を利用して推進させる。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

年々、高齢者は増加傾向にある。高齢者といえばあまり活動的ではないイメージがあるが、アクティブ・シニアという活発な高齢者もおり、趣味やスポーツを通じて同世代同士での交流が盛んである。このように同世代同士の交流はあるが、異世代交流は地域交流の一環として区や市などが多少は行っているが、それも限界があり、自発的な交流はまだ少ない。独自のアンケート調査から、若者側には高齢者と交流したいというニーズはあるものの、きっかけがないといった理由で実際に交流まで踏み切れないのが現状である。

3. 研究テーマの課題



アンケート調査の結果（図表1）より、高齢者・学生ともに「交流はしてみたい」という意見が多かった半面、実際に交流している数は少なく、理由を聞いてみると「きっかけがない」「活動を知らない」などの回答が多数を占めた。このことから、「異世代間での交流はまだまだ少なく、それをサポートする環境も整っていない」という課題が浮かび上がってきた。これらの課題を解決するためには、交流活動の認知度を上げ、きっかけづくりをサポートすることが必要であり、それによって交流の促進を図ることができるのではないかと考えた。

（図表1）独自アンケート「高齢者と交流があるか」

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

私たちは、異世代交流の中でも高齢者と若者に焦点を置き、両者をつなげるサイト（図表2）を運営する。音楽やアウトドアなどの趣味でつながってもらおうと考えたが、いきなり個人間で高齢者と学生がつながるのは難しく、団体同士で交流を持ってもらおうと考えた。具体的には、まず団体を登録し、同じ趣味を持つ団体を検索する。気に入った団体とコンタクトを取り、一緒に交流を図ってもらう。また、TSUNAGE 隊主催のイベントを定期的で開催し、交流のきっかけ作りの場を提供する。場を提供することで共通の趣味同士で新しい人と知りあいになることが可能になる。（図表3参照）

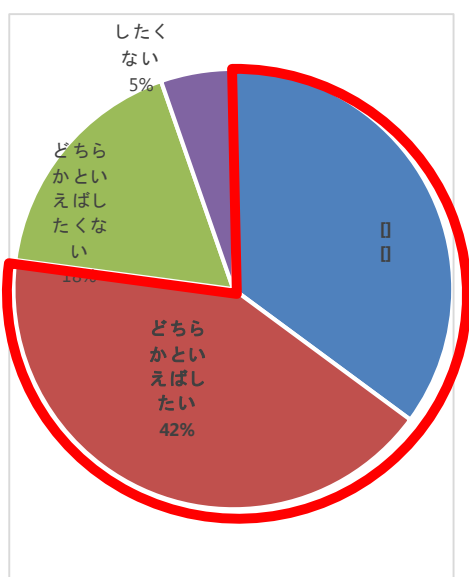
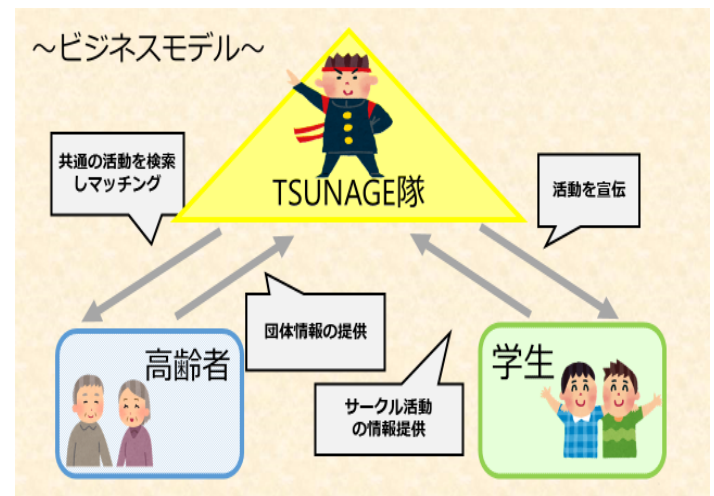
部員不足で存続の危機に直面している団体もあり、まだ団体には所属していないが参加したいという意欲のある個人もいるため、それらのサポートとして個人でもサイトに登録できるように、気軽に団体に入れるような仕組みを作る。また、前述のイベントには個人も参加できるようにし、団体の活性化を図る。

サイト内やイベントで知り合った個人同士で、新しく団体を作ることできる。これによって既存の団体にはないカテゴリーのニーズを満たすことができ、また、既に雰囲気が出来上がっていて入りにくい人でも団体に所属できるというメリットがある。

（図表2） TSUNAGE 隊のサイトイメージ



（図表3） TSUNAGE 隊のビジネスモデル



5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

日本大学商学部の生徒を対象にアンケート調査、学生・高齢者団体の代表者にそれぞれヒアリング調査を行った。

学生にアンケート調査を行ったところ、「本サイトがあれば利用してみたいか」という設問に、肯定的な意見（したい、どちらかといえばしたい）が約8割を占めた（図表4参照）。

学生団体の代表者にヒアリング調査を行ったところ、「団体として高齢者との交流機会は皆無であり同じ趣味同士で触れ合うことで新しい知識や技術を獲得できるので本サイトを利用してみたい」といった意見を頂いた。

一方、高齢者団体の代表者、「現在の活動は同世代の高齢者がほとんどであり、学生との交流がないのでぜひ本サイトを利用して交流してみたい」という意見を頂いた。

両者ともに交流したいという意見を頂き、アンケートも多くの学生が利用したいと答えてくれたため、実現可能性があると思込られる。

（図表4）独自アンケート「本サイトがあれば利用してみたいか」

独自アンケート 対象：学生136名 回答率100%

6. 結果や今後の取り組み

若者へのアンケート調査、高齢者へのヒアリング調査を通じて異世代交流を促進させるサイトのニーズはあることが分かった。今後は実際にサイトを作成、運営を行う。今後、プロモーション活動を通じて本サイトの認知度の向上を図り、個人・団体登録のさらなる増加とともに、学生団体・高齢者団体とのマッチング数を増やしていく。また、TUNAGE 隊主催のイベント数を増やしていき、現在は東京都のみだが、首都圏、全国展開へと拡大を図る。また本サイトの利用者数の増加に伴いより大会・施設情報を増やしていく。

7. 参考文献

- ・内閣府 HP「平成25年度 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査結果」[2016年8月29日閲覧]
(<http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h25/sougou/gaiyo/index.html>)
- ・内閣府 HP「少子化社会対策白書」(2014) [2016年7月30日閲覧]
(http://www8.cao.go.jp/shoshi/shoushika/whitepaper/measures/w-2014/26webhonpen/html/b2_s2-2-2.html)
- ・総務省「国勢調査」(2015) [2016年5月25日閲覧]
(<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/kekka.htm>)
- ・南部登志江 (2015) 「自我発達の観点からみたこどもと高齢者の世代間交流の意義について」
- ・高山緑 (2009) 「青少年と高齢者の世代間交流プログラムに関する一考察」
- ・奥村由美子・久世淳子 (2008) 「学生の高齢者イメージ～イメージの違いをもたらす要因～」
- ・北村安樹子 (2011) 「シニア・シルバー層の世代間交流の実態と意識」
- ・渡邊裕子・森田祐代・流石ゆり子・萩原理恵子・小山尚美・中澤緑・水口哲・森本清・深沢勝彦 (2008) 「看護学生との交流による地域リーダー・高齢者の若者イメージの変化」
- ・草野篤子 (2001) 「日本および米国における高齢者、若者、子供による世代間交流の研究」p9-23
- ・市村聖治 (1992) 「“老い”から始まる若者たちのまちづくり—高齢者と青年団との交流現場から」p44-50

インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

特になし

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となります。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、

A4 サイズでプリントし、3 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、著作権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。